



学校だより

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/yokohamafukayadai>

令和5年5月31日

6月号

横浜市立横浜深谷台小学校

校長 角井 治朗

自分の命は、自分で守る。そのために、大切なことは…

副校長 竹内 智子

長い間、本校のシンボルツリーであったソメイヨシノの切り株からでてきた「ひこばえ」は、70～80センチメートルほど伸びています。その様子を見ながら、ふと小学2年生の国語の教科書にでてくる「タンポポのちえ」の話を思い出しました。植物には、その場から動くことはできない分、自分の命を守るための様々な工夫があるのでしょうか。ソメイヨシノのひこばえからも、生命力の強さを改めて感じました。この後、どのようにになっていくのか、見守っていききたいです。

学校では、4月に校長先生から子どもたちに向け「自分の命は、自分で守る」という話がありました。これは、4月から始まった避難訓練前に児童に向けて話された内容で、今年度も、地震や火災、不審者を想定した訓練等が計画されています。5月には、交通安全教室も行われ、1年生は正しい歩き方を、3年生は正しい自転車の乗り方を学びました。戸塚警察署や交通安全協会、学援隊、PTA 校外役員の方々に見守られながら、実際に一人ひとりが自分で経験し、学んでいました。

また、6月の下旬からは、待ちに待った水泳学習が始まります。今年度は4年ぶりの全学年での学習となります。入学以来、ずっとプールに入っていなかった子どもたちにとっては、うれしい悲鳴が聞こえてきそうですが、長い間水泳学習を受けてこなかった子どもたちが学習するにあたっては、以前のような指導を当たり前再開するのではなく、経験の少ない子どもたちに合わせて、指導内容を修正していく必要があります。安全に水泳学習が進められるよう、本校でも現在その確認を行っています。

私たち人が自分の命を守るために必要なことの1つとして、自分の力でどうしたらいいかを考え、行動できる力(判断力)が大切ではないかと思えます。そして判断力を支えるのは、自分自身で経験した学びではないでしょうか。様々な情報や便利なものが多く普及している今、ますます判断を迫られる場面は多くなっているように感じます。いつも近くにいる大人が守れる場面ばかりとは限りません。子どもたち一人ひとりが、そのような場面に直面した時、今までの経験をもとに自分自身で考え、行動できる子になっていけるよう、私も子どもに関わる大人の一人として、支援していきたいと考えています。

6月は、早々に全校ウォークラリー、4年生は初めての宿泊体験学習が待っています。保護者の方や児童を見守ってくださる皆様も、子どもたちが様々な人や物との出会いを通して、何を感じ学んでいくのか、温かく見守っていただけると幸いです。